

- 2016年度 支援テーマ：WEBサイトリニューアル
- 2019年度 支援テーマ：色鉛筆製造の技術的指導と安定生産体制構築



事業申請から採択までの経緯

- 事業者は2015年度の本事業（グループ支援）において、割箸の製造工程で発生する木片チップを活用した新商品「眠り杉枕」の製品化と販路確立に向けた支援を受けた。

2016年度支援

- 事前に支援主体の担当者が事業者を来訪し、事業の説明が実施された。

2019年度支援

- 新商品として色鉛筆の製造を進めていたが、製造過程で機械の圧力の調整方法などで課題を有しており、その製造工程での技術的な指導と安定生産体制の構築が課題となっていた。
- 事業者が支援主体に課題を説明したところ、支援主体から鉛筆製造などの技術指導を行える専門家に心当たりがなく、支援が難しい可能性があることを伝えられた。
- このため、事業者は技術指導を受けたい専門家候補者を自ら探し出し、支援主体に専門家として推薦したところ、本支援を受けることができた。

支援実施の際のポイント

【事業者起因】

事業者は解決したい課題のポイントを把握し、どの部分で支援を受けたいかを支援主体に伝えていた。

【支援主体起因】

事業者が希望する専門性を有する専門家に心当たりがなかったものの、専門家の探索から事業者と話し合うなどの協力関係を構築できたことがポイント。



専門家マッチング

2016年度支援

- 当初マッチングした専門家は、課題特定支援における連絡調整の際に事業者と意思疎通に不備があり、事業者との間で認識の齟齬が生じたことから、支援主体は専門家の交代を行った。
- 支援主体は、事業者が専門家に対してどのような点で不満を持ったかのヒアリングを行い、事業者が求める支援の進め方が可能な専門家の再選定を行った。

2019年度支援

- 2回目の支援での専門家マッチングでは、事業者が専門家を自ら探し出した。

支援実施の際のポイント

【支援主体起因】

事業者と専門家のマッチングが上手くいかなかった場合には、事業者と専門家間の行き違いなどを把握した上で、専門家を改めて選定することが重要。



課題特定支援／支援計画策定

2016年度支援

- 最初の専門家と事業者の間で、構築するWEBサイトのイメージの擦り合わせとWEBサイトリニューアルの進め方の合意ができていない状態で課題特定支援が進んでしまい、専門家と事業者の間で認識の齟齬が生じることとなった。
- 最初の専門家の支援の進め方は、専門家が事業者をリードして支援を進める傾向があったが、これに対して事業者自身もWEBサイトのデザインや機能構成、英語版の作成の進め方について事業者なりの考え方を有していて、意見が折り合わなかった。
- 交代した専門家と事業者の間では、事業者が考えているWEBサイトのイメージを専門家に伝えるとともに、WEBサイトリニューアルの進め方について、どの作業段階で事業者の確認をとるかなどを事業者と専門家で擦り合わせ、方針について双方が合意した上で課題解決支援に移行することができた。

2019年度支援

- 色鉛筆製造の技術指導を受けるに当たって、専門家は初回訪問時に色鉛筆の製造機械の確認を行い、実際に機械設備や素材を見ながら、色鉛筆製造で使われている桧の間伐材の特性や事業者が感じている現状の問題点を確認した。
- その上で、専門家から普通の鉛筆と色鉛筆で使われている芯の硬さの違いや使われている桧の間伐材に対する製造機械の圧力などの問題点が指摘され、これらの指摘事項に対し、使われている素材に適した製造機械の調整を行うためには複数回の試行が必要であることから、支援訪問可能な日程と回数を事業者とその場で調整し課題解決支援に移行した。

支援実施の際の
ポイント

【専門家起因】

支援での取組のゴールイメージと進め方や事業者の意思決定が必要な事項などを事業者と認識合わせを行い、合意をとることが重要。



課題解決支援

2016年度支援

- 限られた支援期間の中で新しい専門家を信頼し、助言を受けながら取組を行ってWEBサイトを完成させた。

2019年度支援

- 事業者が対応しなければならない技術的な課題に対して、具体的な取組方法が専門家から伝えられていた。
- 事業者は専門家の助言を受けて製造機械の圧力調整などの試行を行い、専門家が訪問した際にその試行結果を共有することで専門家から更なる助言を受けて、最も適切な圧力になる生産設備調整ポイントの探索を行った。
- また、材料の桧の間伐材の乾燥状況や保管方法について専門家の助言を受けて、安定的に生産できる体制の構築を進めた。
- 色鉛筆は専門家の支援の下で製造方法を確立させ、完成に至った。完成後に日本貿易振興会が主催したニューヨークでの展示会に鉛筆（色鉛筆の前に商品化していた「旧校鉛筆」）と色鉛筆を出展したところ、鉛筆がウォールストリートジャーナル誌のエッセイの挿入写真として使われた。

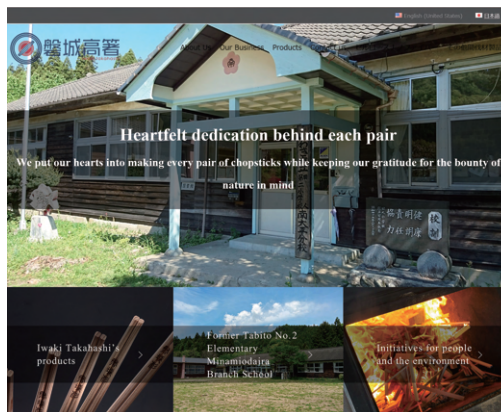
支援実施の際の
ポイント

【事業者起因】

支援での専門家の助言を基に、事業者が試行錯誤を繰り返したことがポイント。

【専門家起因】

事業者の自走化を見据えて専門家は助言にとどめ、実際の試行錯誤は事業者の自主性に委ねる形で支援を行ったことがポイント。



左：支援を受けて完成した色鉛筆「ふくしま木守りの色えんぴつ」

右：支援を受けて制作した海外向けWebサイト